

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

いばらき社会福祉サポート

② 施設・事業所情報

名称：こどもサークル桜川		種別：放課後等デイサービス	
代表者氏名：久保田 嘉郎		定員（利用人数）： 10 名	
所在地：茨城県桜川市御領 1-39			
TEL：0296-73-6364		ホームページ： http://sashinoberute.co.jp	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 平成 28 年 4 月			
経営法人・設置法人（法人名等）：株式会社サシノベルテ			
職員数	常勤職員： 5 名	非常勤職員：	5 名
専門職員	保育士 2 名	児童指導員	7 名
	看護師・准看護師 0 名	児童発達支援管理責任者	1 名
施設・設備 の概要	フロア		
	事務スペース	トイレ	

③ 理念・基本方針

法人理念『すべての人が夢を持ち、夢に向かい挑戦できる社会をつくる』

障害の有無、経験、過去、個々人の置かれた環境に関わらず、誰もが、いつでも、何度でもどんな立場からでも、それぞれの夢に向かって歩める社会をつくることを理念とする。そのために、私たち職員一人ひとりが社会性のある仕事に従事しているという誇りと、高い倫理観を持って福祉に取り組みます。

運営方針 1、子どもの可能性を信じます

運営方針 2、自信を持たせ、成長を促します

運営方針 3、長所に目を向けます

④ 施設・事業所の特徴的な取組

主に未就学児童や支援学校に通う小学生が在籍し活動している。日々の活動については月間カレンダーを作成し、カリキュラムに変化を設けている。また、土曜、祝祭日、長期休みなどは知識や経験を広げることを目的として、社会科見学を多く取り入れ、好評を得ている。職員は保育士や教員免許所持者が中心となり、放課後等デイサービスガイドラインに準拠した運営を心掛けている。また、職員研修に注力しており、社外研修の積極的な参加呼びかけや、毎月の課題レ

ポートなど学びの機会を多数用意し療育力の向上を図っている。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年6月10日から令和元年9月30日
受審回数（前回の受審時期）	0回（平成 年度）

⑥ 総評

□特に評価の高い点

＜社会資源を活かした活動＞

事業所の近隣には公園や公民館、図書館、商業施設等が徒歩圏内に点在し、利用者の活動に有効的に組み込まれています。

＜災害対策に積極的に取り組んでいる＞

事業所近くに川が流れ、以前氾濫した経緯もあり、水害を重点に多方面の災害に対するマニュアルを作成し、万一災害にあっても対応できるよう備えています。

＜療育に特化している＞

個別支援計画に即した個別の療育と集団のプログラムを組み合わせ、また、休日を利用した外出支援等の活動など、多岐にわたって学校や家ではできない体験ができます。利用者に合わせたプログラムを用意して、効果的な支援に取り組んでいます。日曜日以外は預かるなど、利用者ニーズに応えた運営を行っています。

□改善を求められる点

＜事業所の経営・運営に管理者、職員の参加意識の向上を＞

事業所の運営管理は会社の本部中心で執行されており、事業所は利用者のサービス提供に専念できる状況ではありますが、管理者、職員に於いても事業所の経営、運営について実態が把握でき、それらに責任を負っている意識を持てる組織づくりを期待します。

＜共通理解の方法＞

ミーティングに於いて支援方法の共通理解を図っていく取り組みは行われていますが、管理者、職員のより一層の統一した支援方法について、支援計画に基づいてそれぞれ納得のいくまでの共通理解を図っていくことを期待します。

＜目標管理制度の導入＞

職員は年度当初に年間の目標を立て、途中管理者と面談等を実施し目標への取り組みを話し合い、年度末にはそれを評価していくことで、仕事への目標と振り

返りができる仕組みづくりを期待します。

＜話し合いの記録と研修の充実＞

ミーティングやケースカンファレンス、保護者会等で話し合ったことを記録に残し、職員間で共有することを期待します。その中から職員それぞれの不足している知識等について研修計画を立て、研修に参加することで質の向上に結び付け、職員の意識改革を行うことを期待します。

＜エリア会議の開催＞

月1回程度でも近隣エリアの事業所の管理者が集まり、利用者の支援についての事業所の取り組みを紹介したり、人材の確保や定着について話し合うなど、それぞれの事業所の成功事例や課題について話し合う場を作り、連携を図ることを提案します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審して改めて事業所の振り返りが行えました。例年、保護者アンケートをはじめ事業所による自己評価を行なっておりますが、よりよい事業所になるための改善点が明らかになり、当事業所の課題が見えました。引き続き利用児童、一人ひとりの特性を見極めながら、子どもの権利を最優先した支援が行えるように保護者とのニーズの調整を行って行きたいと思えます。

また、評価を頂いた点については、継続して行うとともに問題や課題は職員全員で改善に向けてさらなる研鑽をつみ、事業所の特性を活かして、選ばれる事業所になれるように努めます。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）